

ブナの郷カヤノ平の森（FFG）の 実施状況と今後の展開について

北信森林管理署・業務課長 なかむらびであき ○中村英昭

要 旨

平成8年に、「森林ふれあい基地づくり整備モデル事業」が林野庁長官から通達され、当局管内においても、国有林野第一課が中心となって候補地を選定しその結果、当署管内のカヤノ平自然休養林に決定しました。

中部森林管理局として、初めての取組みであるFFG（ファミリーフォレストガーデン）を当署管内に18区画設定したので、その概要を報告します。

1 はじめに

近年、国民の森・林業に対する要請の多様化が高度化しているなかで、週休二日制の定着・学校週休二日制への移行等を背景に、余暇時間の増大が進み、自然の重要性を再認識し、自然とのふれあい、共生を従来に増して強く求めようとする人が増えつつあります。

このため、森林レクリエーションのひとつとして、住民のライフスタイルに応じて、森林と共生しながら、自由に遊び、安らぐ場所を提供することが要請されており、国有林としても、住民に開かれた国有林として、FFG（ファミリーフォレストガーデン）を設定しこれらに、対応することとしました。

このため、中部森林管理局として初めてのFFGを、カヤノ平に設定したのでここに報告します。

2 FFG事業の概要

FFGは、「森林ふれあい基地づくり整備モデル事業」として、平成8年8月の林野庁長官通達により、東北森林管理局、関東森林管理局・東京分局で実施しています。

FFG事業は、国民がそれぞれのライフステージに応じて森林と共生しながら、それぞれの自由な発想により自然と親しみ、遊び、学び、安らぎ、癒す場を広く国有林が提供することとし、このことを通じて、国民の森林づくりへの参加促進、及び、農山村地域と都市との交流に資することを目的としています。

3 カヤノ平の概要

カヤノ平は、上信越国立公園の中心地である、志賀高原の北に位置し、県道栄公園線（旧奥志賀スーパー林道）の中間点で、北は栄村、野沢温泉村に通じています。標高1,400m～1,700mの間に広がる高原で、周囲を高標山 鳥甲 八剣山に囲まれブナの天然林が樹海の観を呈し、春の雪解けとともに、水芭蕉が顔をみせ、ブナの芽吹きに始まり、夏の山野草、秋の紅葉、冬の静寂なブナ林など、四季の織りなす風景は、神秘的でさ

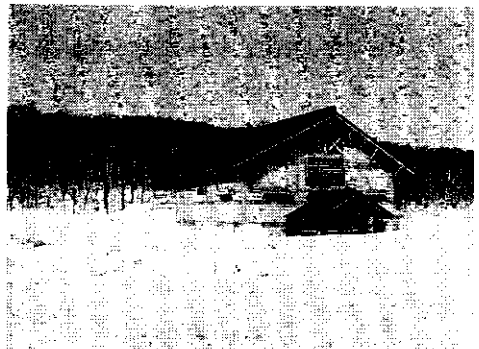


写真-1



写真-2

えあります。

また、一体が全て国有林で、昭和51年に1,452haが自然休養林に指定され、北信森林管理署及び、地元木島平村により、案内所・宿泊施設・遊歩道・東屋・キャンプ場等の施設整備が進められており、年間約2万人の入込みがあり年々増加しています。

カヤノ平の見どころとしては、ブナの原生林や白樺の群生林、北ドブ湿原、カヤノ平牧場、大滝などがあります。

カヤノ平までの行程は、路線バスが無いため、自家用車やタクシー等が通常の交通手段となり、木島平村から清水平林道を利用して入ると便利で上信越自動車道の豊田・飯山ICから現地案内所まで約1時間ほどでいけます。

4 設定箇所

F F G設定箇所は木島平村、往郷山及び、木島山国有林の152林班でカヤノ平自然休養林内に位置し、清水平林道沿いの比較的平坦な場所に、A～Rまでの18区画を選定しました。

設定箇所の林相は、シラカバ・ダケカンバを主とした天然林であり、キハダ・ブナ等の広葉樹の外、一部、スギ・ヒノキ・カラマツが混入しています。

下層植生は、ネマガリタケ・クマイザサの笹類とウツギ・クロモジ・ムシカリ等の灌木が生育しています。

5 設定付近の状況

現地から清水平林道を、約600～1,200m上がるとカヤノ平総合案内所とカヤノ平ロッジがあります。また、現地から樽川沿いのドコ平歩道を上流に進めば、南ドブ湿原を経由して総合案内所に至り、このドコ平歩道は南ドブ湿原から高標山まで続く登山道と接続しています。

現地から北に、大ブナ遊歩道を登ると、ブナ林を通過して北ドブ湿原まで続き、この北ドブ湿原は、季節ごとに折々の花が咲き、散策と鑑賞が楽しめ、ブナ林とともにカヤノ平を訪れる人々の名勝のひとつになっています。

6 F F Gの設定作業

F F Gは、平成8年より、国有林野管理第一課が中心となって候補地の選定が進められ、11年度には、北信森林管理署内の3箇所について、現地調査を実施しました。

その後、アクセス等の交通の便や水・し尿処理等の問題や地元の意向等を考慮して、12年度に、カヤノ平に設定することとし、年度開始早々に設定作業を進めましたが、4月の初旬には、雪のために現地にはいる事ができずに、4月中旬に除雪を待って現地踏査に入り、5月中旬の雪解けをまって区域表示のために区域の刈払いと、6月中旬には、枯損木がはっきりしてきたので、危険木処理を行いました。

7 現地検討会開催

F F G公募に向けて、地元関係者の理解と協力を得ることと並びに、有識者の方々から、実施に

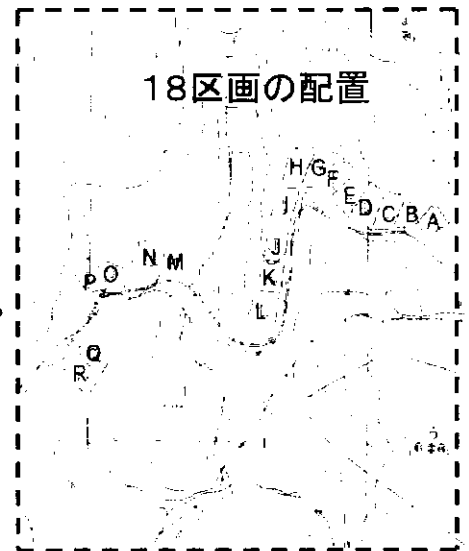


図-1



写真-3

向けての問題点等を掘り起こしてもらうことなどを目的に、7月3日に現地、及び、カヤの平ロッヂにて現地検討会を開催しました。

参加者は、中部森林管理局から局長はじめ3名、地元木島平村から村長はじめ6名、森林インストラクターなど有識者が5名、森林管理署から署長はじめ4名、合計18名の検討会となりました。検討会では、モデル区を設定したらどうか、公募前に拠点となる場所は、笹等の刈払いを行っていただいた方が良い、イベントの開催や道具の使い方の指導などを行う方が良い等の意見が出されました。

8 一般公募

現地検討会での検討結果を基に、公募区画をアルファベットのA～Rまでの18区画として、これらを、整備するとともに、モデル地区、1区画を設定し、その中に、ツリーハウスやハンモック等を設置し、区画の利用の指標になるようにしました。

公募を行なうに当たっては、名称を森林管理局と北信署で検討し「ブナの郷カヤノ平の森」と決定しました。

公募は、森林管理局において、7月7日にプレスリリースにより行い、募集期間は、7月12日～26日の2週間とし、募集期間中の7月22日に現地案内を行いました。現地案内のときの出席は、16家族1団体、総勢29名で内子供が3名でした。

募集期間中の問い合わせ件数は、局署合わせて約50件で、申し込みは30件に上り、関心の高さが伺われました。申込件数が、区画数を上回ったため、7月27日中部森林管理局において抽選により、利用者を決定しました。

9 開園式と現地講習会

盆休みを直前に控えた、8月10日にFFG利用者、大槻森林管理局長 柳沢木島平村長らの出席により、現地で開園式を実施しました。

局長からは、FFGを通じて家族の絆を深め、自然とふれあい、大いに楽しむ中で森林・林業を理解してほしい旨の挨拶があり、木島平村長からは、歓迎と木島平村の施設を利用し楽しんでほしい旨の挨拶がありました。

利用者を代表して、飯山市の伊東さんがFFGを利用するにあたっての思いを発表され、最後に、広報室長手作りの、FFGの記念看板を局長・村長・利用者の代表が設置し、この看板をバックに全員で記念撮影をしました。

第一回目の利用者講習会は、開園式に引き続き場所を移して実施しました。参加家族は8組でした。



写真-4



写真-5

講習会では、FFG設定箇所が水源かん養保安林・国立公園普通地域であることから、署長から利用するにあたって、「やっても良い事」・「やってはいけない事」のルールを説明しました。

「やっても良い事」については、○区域内の倒木・落枝の採取と利用 ○立木の活用 ○開墾を伴わない作物の栽培 ○コンロ等管理された火の使用

「やってはいけない事」については、○樹木を伐ったり・傷を付ける ○たき火等の直火 ○ゴミの置き去り ○排水のタレ流し等です。

続いて、鉋や鋸を使用した、笹・灌木等の刈払作業の方法と、安全な使用方法についての説明と立木の保護のためのあて木の方法や、ロープワークについての説明を行いました。

また、森林インストラクターの余頃さんから、自然のふれあい方についての話をしていただき、参加受講者は、熱心に聞き入っていました。講習会終了後、当署より用意した、ファミリーフォレスト認定証を受講者全員に交付しました。

第2回目の利用者講習会は、秋の紅葉とキノコの最盛期である10月14日に前回参加できなかった家族を対象に実施しました。今回は、5組、13名が参加しました。この講習会には、長野放送と雑誌・分唱堂の取材があり、マスコミの関心の高さが伺われました。

10 設定後の利用状況

契約が夏以降であったため、一部の区画では、刈払や、看板・ベンチの設置が行われているものの、全体的には、区画整備があまり進んでいません。

13年春以降は、本格的な整備利用が行われると思われれます。

11 FFG利用者に対するアンケート

FFG利用者の意識や、今後の利用方法等について知るため、簡単なアンケート調査を実施しました。

アンケートは、FFG利用者18組全員に対して解答用紙を郵送し、返送していただく方法で行いました。その結果17組の方から解答があり内容は次のとおりでした。

利用者が、FFGを知ったのは、新聞が最も多く 88 %で、その他が 12 %でした。

TVや友人はなく、その他の内容は、ともに現地の公募看板によるものでした。

FFGに応募した理由については、複数で回答して頂いたところ、山の遊び場が最も多く、ついで自然観察、山の作業と家族の思い出づくりは同数でした。以下、山菜採りと、その他でした。その他は、キノコ栽培をしたり、どんぐりを植えたいとのことでした。

今後の利用方法についても、区画内をどの程度刈り払うかを尋ねたところ、区域の半分以上刈り払おうと答えた組が 41 %、半分以上と答え

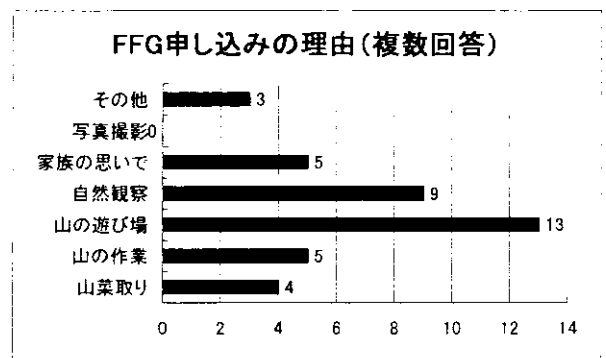


図-2

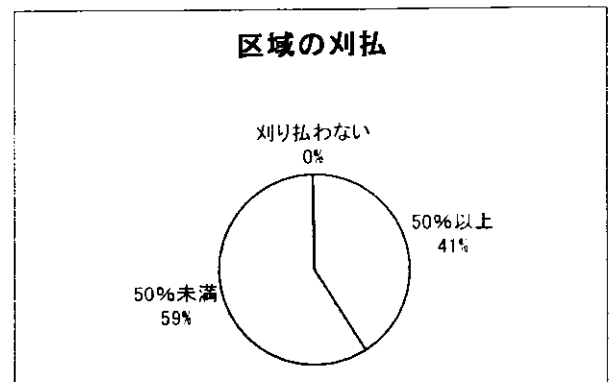


図-3

た組は、59 %とやや上回っています。

ブランコ・アスレチック等の遊具の設置については、設置するが53 %、設置しないが47 %でほぼ同数でした。

北信森林管理署に対する要望については、イベントの開催等に関するものが28 %、区画の整備に関するものが24 %、情報の提供を望むものが12 %、その他が12 %、意見なしが24 %、でありました。その他の内容は、長く継続させて欲しい、今後も自然を守って欲しいとの意見でした。

12 考察と今後の取り組み

国民の森林に対する期待や関心は多様化しており、このなかで、今回行ったFFGの制度は家族とともに森林に親しもうとする、国民の関心の高さが伺われ、このような国民のニーズに沿った取組みは開かれた国有林としての業務展開のひとつと考えます。

今後は、利用者に使用方法の提案・利用者相互の情報交換を図るためのイベント開催などフォローアップを引き続き行いたいと思います。

13 まとめ

森林・林業の活性化のためには、森林・林業に対する国民の理解と協力が不可欠です。このためには、国有林としても、開かれた国有林として、国有林の姿や、そのすばらしい自然を国民に発信していくべきだと考えます。

FFGの取組みはそのひとつであり、この事業の展開により、1人でも、多くの国民の方に森林・林業の理解者と応援者になってもらう努力を今後も続けていきたいと考えています。

14 おわりに

この事業を全面的に協力していただいた、木島平村長はじめ村民の方々、地域にすみ、この地方の森林を愛し、アドバイス等をいただいた森林インストラクターの皆さん、森林管理局長はじめ、国有林野管理第一課・森林整備第一課・広報室の皆さん方に感謝を申し上げます。

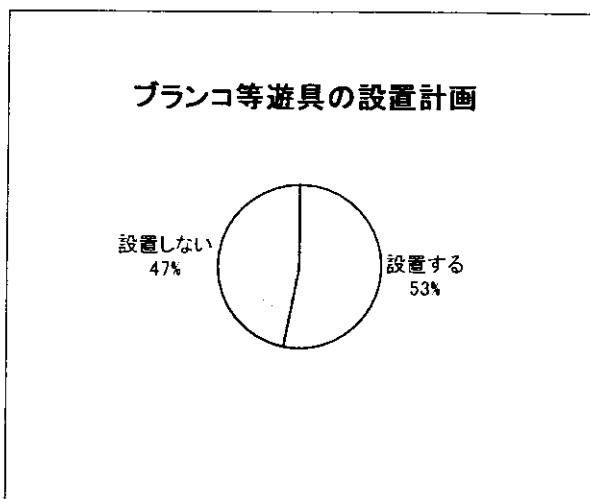


図-4

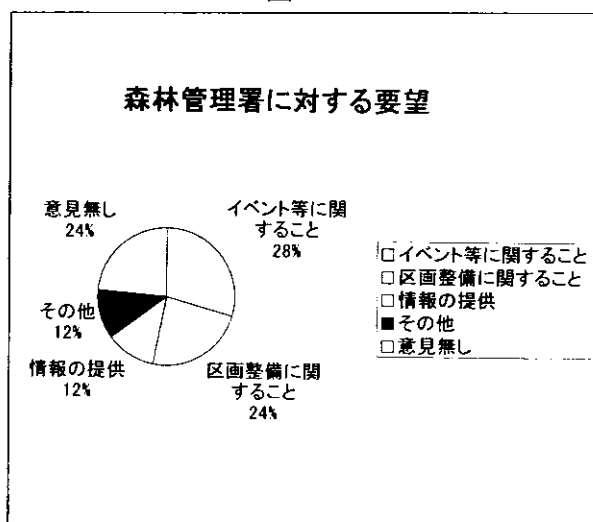


図-5